



歯医者さんが教える 歯と口腔の健康管理

〔第6回〕 口腔粘膜疾患について②

監修／歯学博士 鹿島 健司

今回は前回に引き続き、カラー写真を供覧しながらお口の粘膜の病変についてお話しします。

写真1、2はそれぞれ頬の粘膜と舌に生じた扁平苔癬(へんぺいたいせん)と呼ばれる粘膜病変です。頬粘膜や舌に乳白色のレース状線条として見られることが多く、自覚症状は少なくても多くは違和感程度ですが、時に摂食による刺激痛を伴います。ウイルス説、アレルギー説、肝機能障害説など種々の説が唱えられていますが原因は明確でなく、口腔を清潔に保ち、副腎皮質ホルモン剤の貼薬といった局所療法を行うことで症状の改善がみられます。

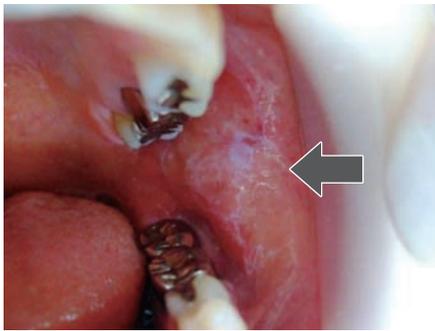


写真1 頬粘膜の扁平苔癬



写真2 舌の扁平苔癬



写真3 唇に生じたポリープ

胃腸だけでなく、口腔粘膜にもポリープが生じることがあります(写真3)。誤咬といって誤って咬んだり、種々の刺激によって生じやすいと言われてい

ます。写真4、5、6、7は粘膜に白斑が生じる白

板症(はくばんしょう)と呼ばれる病変です。

監修／鹿島健司(歯学博士)。1958年1月生。かしま歯科医院院長。川口歯科医師会 学術部長 日本大学兼任講師



写真4 下顎の歯肉の白板症

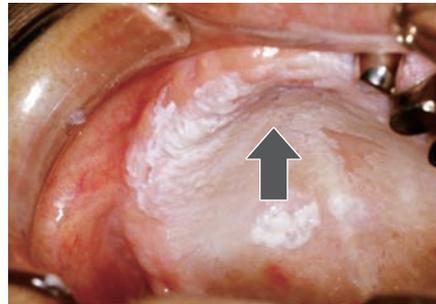


写真5 口蓋粘膜全般に広がった白板症



写真6 初期の癌細胞が見つかった白板症



写真7 初期の癌細胞が見つかった白板症

歯肉や頬粘膜、舌や口蓋の粘膜に限局的に、または広汎にみられることがあります。白板症は癌が発生しやすい状態に組織が変化した「前癌病変」といわれ、5～10%が悪性化(癌化)すると考えられています。

不良補綴物(合わない冠や入れ歯)による刺激や、喫煙などが原因と考えられていますが、はっきりした原因は明らかではありません。悪性化しないよう早期の対応と十分な観が必要です。写真6、7は切除後の病理組織検査によって、極めて初期の癌細胞が発見された症例です。

なかなか治らない口内炎や潰瘍、歯肉や粘膜が白くなるような(時として赤くなるような)変化が見られた場合、歯科口腔外科を標榜している診療所か病院の

歯科口腔外科への早めの受診をお勧めします。